

芍薬のつぼみを咲かせたい！

芍薬のつぼみてまん丸でそれだけで可愛いですよね。

いつ咲くのかな～と楽しみにしていても、待てど暮らせど、ピクリとも動かない。

そんな経験がある方もいらっしゃるかと思います。どうしたら、咲いてくれるのでしょうか？

よく耳にする芍薬を咲かせるポイントはずぼみを洗う、湯上げする、フラワーフード…などなど。

いろいろ聞けけれど具体的にはどうしているのか分からないっ！

そこで、

それぞれの分野のフロの方にポイントをお聞きしました！

お話によると、そもそも芍薬の水揚げ方法はつぼみの固さによって変わってくる そうなのです。

・ゆるいつぼみ⇒水揚げし、活けるだけで花は咲く！

・固いつぼみ⇒蜜を取り除き(※)、その後湯揚げが必要。

湯揚げ時間はつぼみが固いほど長く(最長で1分ぐらい)基本20～30秒ぐらいを目安に行う。

湯揚げ後はすぐに冷水に浸ける。

完全に水が揚がったところでお湯に浸かった部分を切り戻す。

(※) 蜜を取り除き…？

つぼみの蜜の処理について…ぬるま湯または水で洗い流すか、濡れた布などで軽くふき取るのだそうです。

匠のお花屋さんは生産地や天気・温度・湿度によっても湯揚げ時間を変更し、湯揚げ後に花を巻いていた紙を取り除くタイミングもその日の天気・温度・湿度、花の状態を見極めて調整しているそうです。(消費者の手元で花が咲くかどうかは店舗での水揚げに左右される！とおっしゃっていました！)

まめ知識ではプロからのアドバイスを元に実験を実施しました！



消費者の鑑賞条件に近づけるため、直射日光のあたらない常温

(平均 23.3℃ 最高 25.5℃ 最低 20.5℃)で、フラワーフードのあり・なし、つぼみを拭く・拭かない、

湯揚げをした・しないの区分で実験しました。

《5日目の様子》



品種名 富士

サラベル

ルーズベルト

今回の実験での花もち期間は、『富士』約7日間、『ルーズベルト』、『サラベル』約8日間以上でした。(フラワーフードありでの結果です)

『富士』は水揚げ後、すぐにつぼみが開き始め、『サラベル』、『ルーズベルト』は2、3日後に開き始め、最終的には全てのつぼみが開きました。

湯揚げの有無、つぼみを拭いた・拭かないで開花速度や開花率にそれほど差がでませんでした。実験には固めのつぼみを選び実験しましたが、やはりこの時期だとつぼみが大きく、開きやすいということですね。

フラワーフードの利用があると平均して2、3日花もちが延長され、開花した花の大きさが一回り大きくなりました。



フラワーフードの利用 : 左が『なし』右が『あり』

まとめ

4月後半から5月前半の芍薬は、花が咲きにくいとされる固いつぼみが少ないため、湯揚げ・水揚げに関係なく花が咲くようです。また、活け水にフラワーフードを使う事でつぼみの開花率を高める効果があるそうです。今回の実験ではフラワーフードの利用により、花持ちが延長され、咲いた花が大きくなるといった効果が見られました。是非お試しください。



株式会社 大田花き
品質カイゼン室